

1 総論

(1) はじめに

ここでは、本県の希少野生生物に係るこれまでの取組みについて説明します。

青森県版レッドデータブックについて

県は、平成 12 年 3 月に本県に生息・生育する野生生物のうち、本県で絶滅のおそれがある希少な種について、その生息状況や形態的特徴、希少野生生物としての選定の理由などを取りまとめた「青森県の希少な野生生物 - 青森県レッドデータブック - 」(以下、青森県 R D B という。)を作成しました。

青森県 R D B は、県内に生息・生育する希少野生生物を 624 種選定し、併せてその種についての解説を掲載しており、これまで各種行政機関や教育・研究機関、県民への普及啓発等に活用されています。

青森県レッドデータブック(普及版)について

青森県 R D B に選定された種のうちで、特に絶滅の危険度が高いものや、生息地が限定されているものなど 342 種について、通常の R D B より分かりやすく、写真やイラストなども用いて解説しているのが、平成 13 年 3 月に作成された青森県レッドデータブック(普及版)です。

普及版については、関係機関に配布するほか、次世代を担う子供達に青森県の自然環境や野生生物に興味を持ってもらうために、県内のすべての中学校に配布しています。

青森県レッドリスト(2006年改訂増補版)について

県は R D B 作成後、すでに 5 年以上が経過し、選定種やその絶滅の危険度を示すカテゴリーが必ずしも現況の自然環境や希少野生生物の生息状況が適正に反映されていない事が懸念されていました。

また、青森県 R D B では対象としなかった分野があることや、この間、環境省版のレッドデータブックが改訂されるなど新たな知見が得られたことから、県は、選定種及びカテゴリーについて再評価を行い、平成 18 年 3 月に青森県レッドリスト(以下、青森県 R L という。)として取りまとめました。

この結果、選定種は 624 種から 888 種と大幅に増加することとなりました。また、R D B 掲載に掲載されている 624 種のうち、絶滅の危険度が増加した(ランクが上昇)した種が 63 種と全体の 1 割にも上っています。

(付録 青森県レッドリスト選定種一覧を参照)

青森県レッドデータブック 維管束植物以外編について

青森県R Lの改訂にあたっては、新規分野を追加しましたが、その中でも維管束植物以外の植物（蘚苔類、淡水藻類、地衣類、菌類）については、まったくの新規分野であることから、レッドデータブックの別冊版（維管束植物以外編）として平成18年3月に取りまとめました。

【参考】青森県R D B、R Lとも下記のとおり希少野生生物の選定にあたっては、下記のとおり県独自のカテゴリーを使用しています。

区 分	基本概念	要 件	対応する 環境省カテゴリー
絶滅野生生物 E Xランク	県内では、すでに絶滅したと考えられる野生生物	過去の記録・標本等において生息・生育が確認されているが、現在は県内で確認できない種	絶滅 E X 野生絶滅 E W
最重要希少野生生物 Aランク	県内では、絶滅の危機に瀕している野生生物	生息・生育数がきわめて少なく、または生息・生育環境も制限される種で、近い将来県内での絶滅が危惧される種	絶滅危惧 A類 C R 絶滅危惧 B類 E N
重要希少野生生物 Bランク	県内では、絶滅の危険が増大している野生生物	生息・生育数がかなり少なく、または、生息・生育環境もかなり限られた種で、将来県内での絶滅が危惧される種	絶滅危惧 類 V U
希少野生生物 Cランク	県内では、生息・生育を存続する基盤が脆弱な野生生物	生息・生育数が少なく、生息・生育環境も限られた種で、現地点では直ちに絶滅危惧とする程ではないが、環境の変化によっては個体数の更なる減少が危惧され、県内での絶滅が心配される種	準絶滅危惧 N T
要調査野生生物 Dランク	県内では、生息・生育情報が不足している野生生物	限定された生息・生育環境や低生息密度などから注目される種であるが、県内での確認例がきわめて少なく、生息・生育実態等が不明なため評価が保留されている種	情報不足 D D
地域限定希少 野生生物 L Pランク	県内では、地域内に孤立している個体群で、地域レベルでの絶滅のおそれが高い野生生物	生息・生育状況・学術的価値・生物地理学的観点から特に保護に留意すべき地域個体群	絶滅のおそれのある地域個体群 L P

(2) 希少野生生物保護・保全対策報告書作成にあたって

経緯と目的

青森県 R L の改訂にあたっては、県 R D B 作成後の平成 13 年度から専門家によるモニタリング調査や情報の収集を行いました。この調査や検討にあたっては、県内の野生生物の専門家によって「青森県生物多様性保全対策検討会」を組織し実施しています。

そして、この間に得られた新たな知見や県内各地で実際に行われている保護・保全活動の事例などを取りまとめ、県民の皆様にも本県の自然環境や希少野生生物に関する関心やご理解を賜ることを目的として作成したものが本書です。

内容は多岐に渡っていますが、すべて本県のレッドリストの改訂にあたり、専門家の方が実際に調査、検討作業を行うなかで、考えられたこと、問題視していること及びその対策方法として考えられたことなどが掲載されています。

本書の作成により、広く県民の皆様や関係者の方々が、本県の自然環境や希少野生生物についてのご理解が深まり、本県の豊かな自然環境の保護・保全へとつながるものと考えています。

青森県生物多様性保全対策検討会

【会長】

細井幸兵衛

【植物分科会】

木村 啓 根市 益三 細井幸兵衛（維管束植物）

柿崎 敬一（蘚苔類、地衣類）

原田 幸雄（菌 類）

【脊椎動物分科会】

小原 良孝 向山 満（哺乳類）

小山 信行 阿部 誠一（鳥 類）

奈良 典明（爬虫類、両生類）

佐原 雄二（汽水・淡水魚類）

【無脊椎動物分科会】

山田 雅輝 奈良岡弘治 室谷 洋司 山内 智（昆虫類）

大高 明史 大八木 昭（昆虫類以外の無脊椎動物）

また、選定協力者として、特に

平井正和氏（淡水藻類）

工藤伸一氏（菌 類）

にも、ご協力をいただきました。

執筆内容

執筆にあたっては検討会委員のうち、特に次のテーマに関連する事象について精通しておられる専門家の方々に依頼しました。

1．青森県レッドリストに掲載されている希少野生生物の生息・生育状況

本県に生息・生育している希少野生生物について、レッドリスト改訂の際問題となったテーマ、事象などについて執筆していただいています。

題 名	執筆者名	R L分野
ハナヒョウタンボクの絶滅について	根市益三	維管束植物
ムラサキセンブリ（発見された絶滅生物）	根市益三	維管束植物
縫道石山の特殊な生態系について	柿崎敬一	地衣類ほか
日本におけるヤチヒロヒダタケの再発見とその 学術的意義	原田幸雄	菌 類
青森県におけるニホンザルの現況	小原良孝	哺乳類
ニホンアシカの絶滅の経緯	向山 満	哺乳類
分布拡大が目立つカムリカイツブリ	小山進行	鳥 類
枯木に棲むハチたち	山田雅輝	昆虫類
オオルリシジミの絶滅について	室谷洋司	昆虫類
ゲンジボタルの生態と保全	山内 智	昆虫類
ニホンザリガニのたどった道	大高明史	その他無脊椎動物

2. 県内各地で行われている保護・保全活動

本県各地で実際に行われている保護・保全活動の事例を紹介しています。

題名	執筆者名	R L分野
青森県におけるコウモリ類の保全	向山 満	哺乳類
三沢市仏沼の現況について	阿部誠一	鳥類
シナイモツゴの保護活動	佐原雄二	汽水・淡水魚類
ビオトープとその役割	佐原雄二	魚類ほか

3. 野生生物の個体数減少の要因及び対策事項

なぜ、生物は個体数が減少したり絶滅したりするのか、本県での事例を中心にその要因と考えられる対策の方法について紹介しています。

題名	執筆者名	R L分野
青森県におけるロードキルの現状	向山 満	哺乳類ほか
減少傾向にある希少野生生物 (本県に生息するトンボ類3種を例として)	奈良岡弘治	昆虫類
里山のチョウ類の衰退と対応策	室谷洋司	昆虫類
行き場を失うかやぶき屋根のハチたち	山田雅輝	昆虫類
土壌昆虫の生態と保全	山内 智	昆虫類
水生昆虫の生態と保全	山内 智	昆虫類
地表性昆虫の生態と保全	山内 智	昆虫類

それぞれの項目の並び方については、おおむねRDB及びRLの分野と同じとなっています。

維管束植物～維管束植物以外（蘚苔類、淡水藻類、地衣類、菌類）～哺乳類～鳥類

～爬虫類・両生類～汽水・淡水魚類～昆虫類～昆虫類以外の無脊椎動物